

北陸の住宅環境とその問題点

著者	地井 昭夫
雑誌名	北陸における自然的・人為的環境の総合的研究：昭和63年度文部科学省特定研究研究成果報告書
ページ	45-46
発行年	1989-03-01
URL	http://hdl.handle.net/2297/33294

北陸の住宅環境とその問題点

地 井 昭 夫

1. 北陸の住宅規模や持家率などは、全国トップの地位にあるが、その形態や住生活様式は、強い伝統的意識に支えられて、固有の特質を持っている。ここでは、こうした諸特質の中から、とくに「積雪期の住居環境」の問題を取り上げる。

2. 積雪と室内湿度

かつての木造住宅においては、低熱量の採暖手段が用いられ、それが木製窓枠などの通気性のある設備とあいまって、一定の室内環境の清浄性が保たれてきた。

しかし近年の暖房器機の高性能化やアルミサッシなどの普及は、室内空気の汚染—とくに積雪期における高湿度—という問題をもたらしした。そして木造、鉄筋コンクリート造を問わず、積雪期の室内の湿度が90-100%に近いものが、かなりの頻度で認められた。

この高湿度は、室内のダニ、シロアリ、カビ発生の有力な原因となり得るものである。とくにこのダニは、小児ぜんそくの有力な原因の一つとされており、積雪地域特有の対策が求められる。

この他に積雪期の室内環境の問題として、室内のCO₂濃度の増加や台所などの室内照度の著しい不足などの問題が確認された。

3. 室内の湿度対策について

まず個別的対策としては、

- 1) 室内の水蒸気の発生を抑制する。（とくに石油ストーブについては、燃焼ガスを室外に排出する）
 - 2) 壁・窓の断熱性能を向上させる。
 - 3) とくに北と南側の温度差を、できるだけ少なくする。
 - 4) 換気孔の設置や換気を頻繁に行う。
- などの対策が必要であり、公共的には、

- 5)行政的な設計指針を作成してP Rするとともに、各家庭での温湿度計の設置などを呼びかける。
 - 6)設計事務所、工務店などに対する環境設計の指導を強化する。
 - 7)保健婦やホームヘルパーなどのこうした知識を強化するとともに、住宅環境モニターやボランティア活動を育成する。
- などの対策が必要である。